

## 附属学校研究発表会の開催にあたり

筑波大学附属学校教育局教育長

茂 呂 雄 二

境界を乗り越える（バウンダリー・クロス）という言葉は、最近の学習科学や学習心理学で耳にする言葉です。従来の学習のとらえ方が、外部から設定された枠や、与えられた条件に適応することが中心で、学びの本質を捉え損ねていたのではないかと、むしろ学びは今の限界を突破して、新しい見方、新しい感じ方、いままでにないパフォーマンスを作り上げることにあり、現代の学習心理学はそう考えます。

そもそも本学のスローガンは、開かれた大学でありボーダーレスな学びの環境を作るということにあります。境界を乗り越えることは、本学の建学の理念に通じる大目標であり、その目標の中で附属学校群が果たすべき役割は、日本社会の喫緊の課題である、インクルーシブな社会の実現のための実験教育と人材育成にあります。

今回の研究発表会は、新しい学びの捉え方を正に体现しつつ、インクルーシブ社会実現のための実験教育に関しての、附属学校と教育局による研究成果のショーケースとなります。

### 研究発表会式次第

◇ 研究主題 附属学校群の新たな試み ～境界を乗り越えて～

◇ 日 時 2020年2月22日（土）13：00～17：00（受付12：30）

◇ 会 場 筑波大学東京キャンパス文京校舎

全体会 134 講義室、分科会 120・121・134 講義室、多目的講義室 2（BF1）

◇ 次 第

【全体会】13:00～14:30 134 講義室

開会の辞

シンポジウム「黒姫・三浦の共同生活の意義と展望 ～5年間の共同生活を振り返って～」

《休憩／ポスター展示（説明・懇談）14:30～15:00》

【分科会】15:00～16:30

分科会 1 『演劇的表現やパフォーマンスを通じた学習と学習環境の共創』 多目的講義室(BF1)

分科会 2 『ICT を活用した授業実践 ～附属学校群での実践を通して～』 120・134 講義室

分科会 3 『グローバル教育の進め方～ラウンドテーブル形式による課題の検討』 121 講義室

【全体会】16:40～17:00 134 講義室

分科会報告 閉会の挨拶

※URL：<http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp/>（「参加申込書」によりお申し込みください）

※お問合せ：筑波大学 東京キャンパス事務部企画推進課 大学連携・外部資金担当

TEL：03-3942-6811

## ◇ 内容紹介

【全体会】13:00～14:30 134 講義室

### シンポジウム「黒姫・三浦の共同生活の意義と展望 ～5年間の共同生活を振り返って～」

コーディネーター 小林美智子（附属学校教育局教育長特命補佐）

2015年度に、従来から実施していた2校間交流を発展させ、附属学校群としての魅力ある交流活動として「黒姫高原共同生活」を発足させた。その後、全11校（普通附属6校：小学校1、中学校2、高等学校3、特別支援学校5：視覚、聴覚、知的障害、肢体不自由、自閉症等）による交流への拡充をめざし、2019年度に場所を三浦半島に移して「三浦海岸共同生活」を実施した。この5年間、教職員と生徒は実行委員会を立ち上げ、障害や多様性の理解を念頭に心のバリアフリーに対する意識の向上と個性の伸張を図ってきた。この共同生活で児童生徒はどう変わっていったのか、この企画を通して筑波大学附属学校群がインクルーシブ教育として何を発信するのか、さらにどう発展させるのか等について、議論を深めたい。

- |                          |                  |
|--------------------------|------------------|
| ・共同生活が目指したもの（動画視聴を含む）    | 濱本 悟志（附属学校教育局）   |
| ・児童生徒とともに共同生活に参加して       | 石田 周子（附属桐が丘特別支援） |
| ・児童生徒の実行委員会を指導して         | 横山 知弘（附属聴覚特別支援）  |
| ・児童生徒の意識調査から             | 小島 道生（附属学校教育局）   |
| ・私にとっての共同生活              | 水江 光希（卒業生、筑波大学生） |
| ・シンポジストの意見交換／質疑応答（フロア参加） |                  |

【分科会】15:00～16:30

## ◇ 分科会1 多目的講義室(BF1)

### 『演劇的表現やパフォーマンスを通じた学習と学習環境の共創』

茂呂 雄二（教育局）、若井広太郎・根岸 由香（附属大塚特別支援）

分科会1では、実際に表現遊びやインプロ遊び等のパフォーマンスを体験してもらいながら、私たちのプロジェクト研究の意味合いや今後の可能性を感じて欲しいと思います。以下のような手順で進めたいと思います。

- ① 自己紹介とアイスブレイクのためのインプロ 10分
- ② パフォーマンスとは何か：パフォーマンス心理学ミニ入門 茂呂 10分
- ③ 音楽を使ったパフォーマンス遊びの実際 若井・根岸 60分
- ④ 振り返り

本分科会で短く紹介するパフォーマンス心理学とは、新しい発達支援の考え方であり、普通はやらないようなことにあえてチャレンジし実践することが発達の道だと考えます。同時に、その様なチャレンジを許してくれるような、信頼のおける仲間関係やコミュニティを作ることが最も重要だと考えます。

本分科会で取り上げる、大塚特別支援の音楽遊びとは、次のようなものです。附属大塚特別支援学校幼稚部では、社会性やコミュニケーションの発達支援の方法の一つとして、音楽的活動を取り入れています。活動の中では、『動き』や『リズム』の同期、また情動の共有や調整を重視しています。集団活動のティームティーチングにおいて、子どもたちの表現を即応的に汲み取り、逆に大人が子どもたちの模倣もしながら拡げていく方法で支援をします。音楽的活動の『遊び』を通して、子どもたちと共に大人も発達することを体験できたらと思います。

## ◇ 分科会 2 120・134 講義室

### 『ICT を活用した授業実践 ～附属学校群での実践を通して～』

附属学校教育局プロジェクト(4)チーム（幹事：白石 利夫（附属桐が丘特別支援））

いろいろな校種が集まっている筑波大学の附属学校群。各校では毎日の授業で ICT が活用されています。この分科会では ICT 活用事例から 6 つを取り上げて、校種を問わずにご覧に入れます。

附属各校の普段使いの ICT 活用的一端をご覧ください。

#### 【流れ】

15:00～15:25 134 教室にて、ライトニングトーク

…6 人の発表者が一人 150 秒で「顔見せ」（簡単な発表紹介）をします。

15:30～16:30 134 教室と 120 教室とに分かれて、提案 … 教室ごとの発表者は当日発表します。

#### 【提案】（仮題）

- ・『小学校理科授業にプログラミング学習をどう位置付けるか』：辻健（附属小）
- ・『スマートデバイスを活用した物理授業の実践』：今和泉卓也（附属駒場中・高）
- ・『附属坂戸高等学校の ICT 実践活用事例 ～「1 人に 1 台 PC」実現に向けて～』  
：井上卓也（附属坂戸高校）
- ・『「動画」を使った授業実践』：八木郁朗（現職研修生・北海道新篠津高等養護学校）
- ・『桐が丘特別支援学校での実践』：白石利夫（附属桐が丘特別支援）
- ・「視覚障害向けアクセシビリティ技術の活用 ―情報アクセスの現状と発展的操作に必要なイメージ作りを中心に」：内田智也（附属視覚特別支援）

## ◇ 分科会 3 121 講義室

### 『グローバル教育の進め方～ラウンドテーブル形式による課題の検討』

飯田 順子（教育局）、建元 喜寿（附属坂戸高校）、佐藤 北斗（附属視覚特別支援）

この分科会では、参加者がそれぞれの体験を持ちより、今後の附属学校におけるグローバル教育をさらに推進していくための情報共有や意見交換を行う予定です。協議を行う観点として、以下の 3 つの観点について話題提供を行います。

- ① 海外連携校の開拓・関係づくり（建元）（写真 1 参照）、
- ② 特別支援学校におけるグローバル教育の展開（留学に向けての準備と成果）（佐藤）、
- ③ グローバル教育の効果検討（質的評価と量的評価の混合による評価の実践例の紹介）（飯田）。

そのうえで、こんな点が難しい、こんなときどうしたらいいの など、活発に意見交換を行いたいと思います。



（写真1 SDG's 国際シンポジウムの様子）



（写真2 トビタテ！留学 JAPAN タイ留学）

【附属学校研究発表会 全体会・分科会 フロアマップ】

